

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 30 January 2004

背景: 脳卒中後の早期死亡では、脳浮腫が主な原因となる。グリセロール10%溶液は、脳浮腫を低減するとされている高張性薬剤である。

目的: 虚血性あるいは出血性の急性脳卒中においてグリセロール静脈内(I.V.)投与が短期または長期での死亡率および機能的アウトカムに影響を与えるか否か、および本投与が安全であるか否かについて判定すること。

検索戦略: Cochrane Stroke Group trials register(2003年1月)を検索し、数名の試験実施者と連絡をとった。

選択基準: 急性脳卒中発症から数日以内にグリセロールI.V.投与を開始して臨床アウトカムについて評価され、終了した既報・未発表の全てのランダム化および準ランダム化比較試験。

データ収集分析: 2名のレビューアが独立に基準を適用し、試験の質を評価するとともにデータを抽出し、これを共同レビューア全員が点検した。全死因、機能的アウトカム、有害作用について分析した。

主な結果: グリセロールI.V.投与と対照が比較され、終了した11件のランダム化試験について考察した。急性虚血性および/または出血性脳卒中に対する予定投与期間での死亡に関する分析が可能であった試験は10件であり、482名のグリセロール投与患者と463名の対照患者が比較されていた。グリセロールにより、予定投与期間内での死亡のオッズに非有意な低下がもたらされた(オッズ比(OR)0.78、95%信頼区間(CI)0.58~1.06)。虚血性脳卒中が確定または疑われる患者では、グリセロールにより、予定投与期間内での死亡のオッズに有意な低下がもたらされた(OR 0.65、95%CI 0.44~0.97)。しかし、予定追跡期間の終了時には、死亡のオッズに有意差が認められなかった(OR 0.98、95%CI 0.73~1.31)。機能的アウトカムが報告された試験は2件のみであったが、予定追跡期間の終了時に良好なアウトカムであった患者は非有意ながら多かった(OR 0.73、95%CI 0.37~1.42)。グリセロール投与に伴う有害作用は溶血のみであった。

レビューア見解: 本システマティック・レビューから、虚血性脳卒中が疑われる患者あるいは確定診断された患者での短期生存に対してグリセロール投与が望ましい効果を発揮すると示唆されるものの、信頼区間が広く、投与効果の程度はわずかに過ぎないと考えられる。患者数が比較的少なく、CT以前の頃に実施された試験であるため、結果の解釈には慎重を期する必要がある。長期間生存においてベネフィットがあるとのエビデンスが得られていないことから、急性脳卒中患者にグリセロール投与をルーチンまたは選択的に適用することは支持されない。

Citation: Righetti E, Celani MG, Cantisani T, Sterzi R, Boysen G, Ricci S. Glycerol for acute stroke. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2004, Issue 2. Art. No.: CD000096. DOI: 10.1002/14651858.CD000096.pub2.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Stroke

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。